

学校図書館支援センター通信 NO.114 9月号

平成29年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

学校図書館に関する夏の研修会特集です！ ～学校の中心として活躍する先生方のスキルアップをめざして～

8月24日（木）に「第2回学校図書館研修会・ネットワーク会議」が行われました。対象は、各学校の学校司書、司書教諭の先生方です。午前は、5つのワークショップに分かれて、実技等を通して、学校図書館活用に関わるスキルを学びました。午後は、「課題図書について」の講演会が行われました。

「課題図書選定のねらいや意図と読書指導について」 講演会 講師 全国学校図書館協議会 研究調査部長 内海 淳 様

課題図書は、新しい本と出合えるチャンスであること、読書感想文を書くためだけでなく、読書指導にも役立てることができることがわかりました。そして、子供たちに読書習慣を身に付けさせたいのであれば、「まずは、まわりの大人が本を読みましょう。」という言葉が心に響きました。ぜひ一度、児童書を手にとってみてはいかがでしょうか。



【授業における新聞活用】 講師 毎日新聞社 戸澤 美佐 様

研修会の冒頭で、「新聞は、社会の動き、社会で今、何がおきているのかがわかります。また、造詣が深い人間が書いた記事を活用することは、子どもたちの教育にとって無駄にはならない。」とお話されていたことがとても印象的でした。市川市では、小学校4年生以上に、毎朝4社の新聞が配付されます。見出し作りや他社の新聞の読み比べなど実際に研修会で学んだことを基にして、活用を広めていただければと思います。



【調べ学習の進め方】 講師 株式会社ポプラ社 飯田 建 様

ポプラディアを使って、調べ学習を行いました。先生方が実際に、調べ学習を体験することで、児童生徒の気持ちが変わり、指導する上で大切にしなければいけないポイントを学ぶことができました。また、調べ学習を進める上で、調べ方を教えることの大切さを実感する研修会となりました。



【図書修理の基礎】 講師 キハラ株式会社 高尾 齊 様

ブックコートのかかけ方、図書の修繕の方法について実演を通して、教えていただきました。参加した学校司書より、「普段あたり前のようにやっていたのですが、新しい発見がいろいろとあり、大変役に立ちました。」という感想がありました。実践を通しての気づきがあり、今後につながる研修会となりました。



【ビブリオバトルをやってみよう】 講師 中央図書館 前越 裕子 様

秋におすすめの本を持ち寄り、ビブリオバトルを実際に行いました。ビブリオバトルは、テーマを変えることで活用の幅が広がります。参加された方から「夏休みに借りた本を使って行ってみたい。」という感想もありました。



【幼児と保護者のための図書講座】 講師 中央図書館 高橋 とも子 様

幼稚園の先生方を対象に、月齢に合わせた本の紹介をしていただきました。「本は心の栄養」という考えの基、乳幼児期からの読み聞かせの大切さが伝わってきました。まわりの大人が本と触れ合う場面を意図的に作っていただければと思います。



福栄中学校の学校図書館は、パソコンルーム、多目的スペースと合わせて学習センターとして機能しています。新しくはありませんが、ゆったりした空間が確保され、居心地がよい場所になっています。学校図書館を親しみやすく利用しやすいものにしてようと図書委員といっしょに日々活動しています。

昨年度の委員会発表では、「100万回生きたねこ」のスクリーン紙芝居を行いました。プロジェクターを使用し、音響も入れて行った読み聞かせはとても堂々としていました。学校図書館を通して、多くの本にふれて世界を広げていってほしいものです。



(市川市立福栄中学校 学校司書 廣瀬 佐恵子)

【スクリーン紙芝居上演中の様子】

司書教諭研修会～読書を広げる・深めるために～

7月26日（水）、全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザーの福田 孝子先生を講師にお招きして、司書教諭研修会を行いました。「児童生徒の読書を広げる・深めるために」というテーマに、前半は、次期学習指導要領の改訂の流れと学校図書館の位置づけ、読書能力の発達段階についての話を中心に、司書教諭ができることについてわかりやすくご指導していただきました。

子どもと本をつなぐためには、「大人の力」が大切であり、その中心的役割を司書教諭、学校司書が担っています。また、児童生徒の心を動かすためには、特に学級担任の働きかけが大切です。学級担任が、読書をすすめることで、児童生徒の読書能力の獲得に大きな影響を与えるそうです。

また、後半は、「集団テキストを使用した読書会」「読書ボード作り」「味見読書」のワークショップを行いました。どの演習も、グループ



先生方が作成した読書ボード

※読書ボードは、付箋を活用するので、短時間でまとめることができます。

ごとに、自然と会話が生まれていました。福田先生は、「読み取ったことを表現して、伝えあうことが大切である」とお話されていました。児童生徒が、自発的に「話したいな」と思う授業を作るための手立てを多く教えていただきました。

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。
市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

